

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人守山市文化体育振興事業団	
施 設 名	守山市市民文化会館（守山市民ホール）	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	3,532	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,532 (千円)

1. 事業概要

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ルシオール AKF 秋色	2023年11月26日	大ホール：ズーラシアンブラス「音楽の絵本～プレミアム」 小ホール：「音の遊園地区」他	目標値	2,000
		大ホール・小ホール他		実績値	2,674
2	ルシオール街かどコンサート (vol.24、vol.25)	2023年9月24日 2024年3月2日	出演/栗原未和、迎肇聡、植松さやか 出演/ルシオールウインドオーケストラ木管五重奏	目標値	280 (1公演/70)
		市内公民館他		実績値	305
3	ルシオール音楽塾	2023年9月3日、10月29日、2024年1月21日	講師：岡田暁生、中村孝義、青山登志和 出演：イリーナ・メジューエワ、日本センチュリー交響楽団他	目標値	450 (1講座/150)
		小ホール		実績値	333
4	中山道・守山宿 旅への誘いコンサート (vol.16、vol.17)	2023年7月2日 2023年12月3日	出演/上敷領藍子、深見まどか 出演/船越亜弥、山際きみ佳、掛川歩美	目標値	400 (1公演/200)
		小ホール		実績値	356
5	ルシオール・クラシックスリサイタル・アンサンブルシリーズ (vol.06、vol.07)	2023年12月16日 2024年2月18日	出演/荒井里桜、大井駿、横原千史 出演/葵トリオ、横原千史	目標値	400 (1公演/200)
		小ホール		実績値	342

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

市民ホールが行う事業のミッションを、①人間の知性と感性、身体的能力の可能性へ挑戦する優れた実演芸術を提供し、市民を実演芸術の奥深く広い世界へ誘う、②市民が文化芸術の担い手となるよう、守山の文化芸術の創造力をプロデュースし、アーティストを育てる、③守山の歴史や地域資源を活かす、④長期的・継続的な取組を行う、の4点とし、これに沿って守山市の文化芸術の基盤を作るための普及啓発事業として「ルシオール AKF 秋色」「ルシオール音楽塾」「中山道守山宿 旅への誘いコンサート」「ルシオール街かどコンサート」「ルシオール・クラシックス（リサイタル・アンサンブルシリーズ）」の5事業を組み立て、おおむね当初予定のとおり事業を進めることができた。

【ルシオール AKF 秋色】

平成26年度からの継続事業で0歳児から楽しみ、クラシックコンサートへのデビューの機会を提供している。音楽ワークショップの開催など、ズーラシアンブラスや様々なアーティストの出演により、子どもたちやファミリー層が楽しみながら実演芸術に親しめる機会を作っている。

【ルシオール街かどコンサート】

劇場まで足を運ぶことが困難な方が在住地域で気軽に聴くことができるコンサートはニーズが高く、アンケート結果や来場者からも、「質の高い演奏を無料で鑑賞できるので今後も続けて欲しい」「高齢でなかなか劇場までは出かけづらいが、近くの会場の開催はうれしい」など継続して開催を求める声が多く聞かれた。

【ルシオール音楽塾】

クラシック初心者の方から愛好者まで満足できる事業としている。出演者も協定を結ぶ日本センチュリー交響楽団や協力・連携をしているびわ湖ホールの声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー、関西圏を中心に活躍している奏者など、高い演奏技術による良質な音楽を届けることができた。

【中山道守山宿 旅への誘いコンサート】

歴史や自然などの地域資源とクラシック音楽を関連付けたコンサートにすることによって、クラシック音楽への関心を高めるとともに、地元の魅力を再認識することにつながった。また、関西圏を中心に活躍するアーティストの優れた演奏を提供することができた。

【ルシオール・クラシックス（リサイタル・アンサンブルシリーズ）】

日本や世界で活躍しているアーティストによる最先端の演奏を提供することで聴衆の関心を高めることができた。また、近くの劇場で一流の演奏を間近で鑑賞でき感動したとの声が多く聞かれた。荒井里桜ヴァイオリン・リサイタルでは、当初計画していたピアニストが奏者都合により変更となった。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

守山市は若い世代の割合が高く、教育・子育て環境の充実は市の重要な課題となっている。「第5次守山市総合計画」では、文化・芸術は、市民が真にゆとりと潤いの実感できる心豊かな生活を実現していくうえで不可欠なものであり、文化・芸術の振興と、市の経済活動やまちづくり活動は密接に関連し合うと位置づけられている。

「守山市教育行政大綱」では、1年を通して、子どもから大人まで誰もが気軽に本格的な文化・芸術に親しめる機会を設けると規定されている。これに基づき市民ホールにおいて、子どものための事業や実演芸術の普及啓発事業が始まることとなった。

0歳児から鑑賞できる子どものための事業として「ルシオール AKF 秋色」、地域の公民館や図書館など身近な場所で気軽にクラシック音楽を聴ける「街かどコンサート」、知的なアプローチを望む人たちに応える「ルシオール音楽塾」、地域資源、ふるさとの文化資産等の再発見と関連づける「旅への誘いコンサート」、更に世界的に活躍し、大都市圏でしか鑑賞ができないアーティストを地元のホールに招く「ルシオール・クラシックス（リサイタル/アンサンブルシリーズ）」の5つの事業を構築している。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

5 時事業全体の入場者・参加者数に関しては目標値 3,530 人に対して実績値 4,010 人、目標値を上回ることができた。

【ルシオール AKF 秋色】

<目標>楽しみながら芸術に触れる。実演芸術の体験機会をつくる。

<実績>鑑賞無料のキオスク公演、ズーラシアンブラス（大ホール）、参加型コンサート（小ホール）などさまざまな公演を提供することで、子どもたちやファミリー層に実演芸術への関心を高めることができ入場者・参加者数の目標値 2,000 人に対し実績値 2,674 人と目標を上回ることができた。特に大ホールの公演では手ごろな価格で質の高い演奏と全世代が楽しめる内容が喜ばれた、

<指標>アンケートによる公演内容について「大変良い・良い」の回答、85%以上を目指す。

<実績>94%（達成）

【ルシオール街かどコンサート】

<目標>初めてでも気軽に実演芸術に接する。

<実績>普段クラシック音楽に親しみが無い方も耳馴染みのある曲目や奏者による楽器や曲目解説によりリラックスした雰囲気を楽しむ場を提供できた。

<指標>アンケートによる公演内容について「大変良い・良い」の回答、85%以上を目指す。

<実績>83.1%（未到達）

<指標>50 代以下の若年層・壮年層の来場者について全体の 35%以上を目指す <実績>32.9%（未到達）

【ルシオール音楽塾】

<目標>音楽史、作曲家、作品に対する知識を得る。実演芸術の面白さを解説の助けを得て体感する。

<実績>各講師陣の個性的かつ魅力のある解説と実演をセットにすることにより各回の演奏曲をより深く、またさまざまなアプローチで鑑賞することができた。オペラ曲については字幕を投影することでより理解が深まったと好評を得た

<指標>アンケートによる公演内容について「大変良い・良い」の回答、85%以上を目指す。

<実績>87.8%（到達）

<指標>50 代以下の若年層・壮年層の来場者について全体の 35%以上を目指す <実績>25.2%（未到達）

【中山道守山宿 旅への誘いコンサート】

<目標>実演芸術のコンサートに気軽に行ける。地域資産と結びつけることで日常に身近なものとしてコンサートを聴く。

<実績>関西で活躍する上敷領藍子、深見まどか（vol.16）、船越亜弥（第 90 回日本音楽コンクール 1 位）、山際きみ佳、掛川歩美（vol.17）の意欲的な演奏により好評を得た。地域資産の紹介者は地元で活動する人で、関係者の来場もあり、このことからコンサートへの親しみを増すことができた。

<指標>アンケートによる公演内容について「大変良い・良い」の回答、85%以上を目指す。

<実績>81.3%（未到達）

<指標>50 代以下の若年層・壮年層の来場者について全体の 35%以上を目指す <実績>18.6%（未到達）

【ルシオール・クラシックス（リサイタル・アンサンブルシリーズ）】

<目標>今後も継続的にコンサートに行きたくなるように、作曲家や作品、特に実演と演奏家に関心を持つ。

<実績>日本や世界で活躍している荒井里桜、葵トリオによる最先端の演奏を提供することで聴衆の関心を高めることができた。音楽評論家が司会するポストトークで演奏者の生の声を聴衆に届けることで、さらにクラシックファンやアーティストのファンを新たに増やすきっかけとなったと考える。

<指標>アンケートによる公演内容について「大変良い・良い」の回答、85%以上を目指す。

<実績>95.3%（到達）

<指標>50 代以下の若年層・壮年層の来場者について全体の 35%以上を目指す <実績>44%（到達）

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【ルシオール AKF 秋色】、【ルシオール街かどコンサート】、【ルシオール音楽塾】、【中山道守山宿 旅への誘いコンサート】、【ルシオール・クラシックス（リサイタル・アンサンブルシリーズ）】5事業すべて、当初の計画通り実施することができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業費については当初予算 9,137,000 円に対して、決算額が 9,127,874 円となり、ほぼ当初の計画通りに進んだ。

収入について当初予算は 2,700,000 円に対し 2,411,100 円となり△288,900 円で、若干目標に届かなかった。新型コロナウイルスの感染拡大状況で、クラシック事業の主な客層である高齢者が完全に戻りきっていないことも一因と考えるが、有料入場者数を増やし収入を増やす一層の努力が必要である。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

実演芸術において創造性を発揮するためには、優れた作品を優れた演奏で提供することが基礎となる。実演家の起用に当たっては、日帰り圏からが望ましいという現実的な事情も含め、特に関西圏での創造力の蓄積に寄与できることを考慮している。このため、関西圏で活躍する若手・中堅の演奏家を基本に、プロデューサーが事前に実演で確認することを原則に優秀な人材の起用に努めている。

オーケストラについては、日本センチュリー交響楽団と協力協定を結び、「ルシオール音楽塾」でのアンサンブル公演への出演により、オーケストラの団員個人が能力を発揮する場を設け、聴衆にも団員個人に注目できる機会をつくっている。

また、滋賀県ではびわ湖ホールによるオペラ制作が実演芸術の創造活動の中心であり、びわ湖ホール声楽アンサンブルは関西での声楽家育成の重要な団体となっていることから、OB・OGであるソロ登録メンバーの中から、「ルシオール街かどコンサート」、「ルシオール音楽塾」「中山道・守山宿 旅への誘いコンサート」に優れた人材を起用し、びわ湖ホール声楽アンサンブルが育てた人材を更に飛躍させる機会とすることができた。

「ルシオール・クラシックス（リサイタル・アンサンブルシリーズ）」では、全国的・世界的に活躍し、今後も活躍が期待されるアーティストの演奏機会を提供すること、優れた文化芸術を紹介するという市民文化会館の役割を確認した。

荒井里桜氏については、オーケストラとの共演やリサイタルの他にメディアでの活動も積極的に行っており、その結果、50歳以下の来場者が全体の48%、市外・県外の方の合計が全体の83.1%、当劇場へ初めて来場された方が54%と、新たな年代層、客層の獲得につながった。

葵トリオについては、世界中で活躍し、国内外から注目を集めるピアノトリオの世界レベルの演奏を届けることができた。

また、地方都市においては、日常的にクラシック音楽の実演に接する機会が少ないことから、自分たちには縁がないものと敬遠する傾向が見られる。このため、コンサートでの奏者のトーク、講師の解説、判りやすい基礎的な曲目解説の掲載のほか、「旅への誘いコンサート」では、最初の10分間で、演奏される曲目と何らかの関連のある地域の歴史資産や自然を取り上げ、市民の日常と関連づけるようにしている。これはアンケートでも好意的な反応が多く見られた。さらに、「ルシオール・クラシックス（リサイタル/アンサンブルシリーズ）」においては、音楽評論家の司会によるポストトークを実施し、アーティストの人となりを知る事により、クラシックファンやアーティストのファンを新たに獲得することができ、今後のシリーズの来場者を増やすきっかけとなったと考えている。

また助成対象事業ではないが、毎年度、市からの委託を受け5月に「ルシオール アート キッズフェスティバル」を実施しているが、ここでは日本センチュリー交響楽団によるオーケストラコンサートを行い、市民がオーケストラに触れる機会を作ると共に、ソリストにピアニストの金子三勇士氏の起用、モーツァルトの歌劇『魔笛』ではびわ湖ホール声楽アンサンブルを起用し、創造性の発揮に努めている。同時に実施しているキオスク公演など鑑賞無料の公演でも地域の実演家の活躍の場をつくっている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

守山市は、中山道守山宿の歴史に代表されるように歴史遺産にも恵まれ、また、守山市文化協会をはじめとする市内文化団体の活発な活動など、文化振興の土壌は豊かである。しかし、気軽なエンターテインメントがあふれ、テレビやウェブ上でも情報が氾濫している昨今では、高度な修練を介して、精神を集中させるなかで新たな価値を創ろうとする実演芸術の場が敬遠されるという傾向も見られる。

市内には一定の熱心な、いわゆるクラシックファンの存在が認められるが、更にこれを広げていくには、コンサートという音楽の場を多様な形にし、聴衆の側からの様々なアプローチが可能なものにする必要がある。

【ルシオール AKF 秋色】

大ホールの「ズーラシアンブラス公演」は“吹奏楽のまちもりやま”の機運の高まりがある中で実施し、入場者が607人と例年より多い結果となった。また小ホールの「音の遊園地区」についても、ピアノカワークショプの参加者がコロナ禍以降、最多で入場者数も147人と、例年より多い結果となった。

また当日、地元商店を中心としたキッチンカーの出店もあり地域の方が多く来場され、日ごろ文化芸術活動に関心が薄い方も、さらに公演を鑑賞することで、文化芸術への関心を高めることができた。

【ルシオール街かどコンサート】

4公演のうち、3公演が満席となり地域に文化芸術を届ける重要性を再認識させられた。

アンケート結果からは、多くの参加者が初めてコンサートに参加したこと（アンケート回答の49%）や、演奏の質に感動したとの声が多く寄せられ、「プロフェッショナルな出演者の質の高い演奏を無料で気軽に鑑賞できた」という意見や、今後も継続して開催を求める声が多くあった。また、高齢者や小さなお子様を持つ親など、従来はコンサートに参加しにくかった層が身近な会場で参加できることへの評価の声も多く、地域住民のクラシック音楽への関心が高まっていることが確認できた。

【ルシオール音楽塾】

演奏に先立って音楽学者や評論家などが解説をすることにより、深い理解が得られ、また実演についても、関西圏・全国的に活躍する奏者の質の高い演奏に満足する声が多く寄せられた。質の高い講義と実演を通じて、初心者から愛好者まで幅広い層にクラシック音楽の魅力を伝えることができた。

また、リピーター率もアンケート回答の68.7%と多く、今後も継続的に開催して欲しいや、意欲的なプログラムを期待する声も多く、地域住民が文化芸術に対する関心を深めていることが示されている。

【中山道守山宿 旅への誘いコンサート】

アンケート結果によると、参加者は演奏の質やプログラムの解説に非常に満足しており、「一流の演奏家の演奏をリーズナブルに聴くことができ素晴らしい」といった声が多く寄せられた。また、「地元をテーマにした個性溢れる企画が素晴らしい」という声もあった。

コンサートには全国的に評価の高い演奏者が出演し、彼らの質の高い演奏を地域住民に提供することができた。また地元の地域資源とクラシック音楽を関連付けたプログラムにより、地域住民はクラシック音楽だけでなく、地元の文化遺産や自然に対する再認識を深める一助となった。さらに低価格で質の高い音楽体験を提供することで、地域住民にとってのクラシック音楽の敷居を下げ、多くの新しい聴衆を獲得したと考えている。

【ルシオール・クラシックス（リサイタル・アンサンブルシリーズ）】

アンケートでは、多くの参加者が演奏の質の高さに感動し、満足度が非常に高いことが確認された。具体的には、「本格的な演奏会で非常に素晴らしかった」「一流の演奏を安価で楽しめて感動した」といった意見が多数寄せられた。大都市圏でしか鑑賞できないアーティストを地元へ招くことで、地域住民が身近で高品質な音楽を楽しむ機会を提供でき、これにより、守山市民ホールの価値が再認識され、地域住民のクラシック音楽への関心がたかまったと考えられる。

また、ポストトークを通じてアーティストの人となりも知ることで、クラシック音楽ファンやアーティストのファンが増え、地域全体の文化的な豊かさの向上の一助となった。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【事業運営】

「守山市文化振興アクションプラン（平成 26 年度策定）」において、守山市民ホールは市の文化振興の中核施設として位置づけられ、それにふさわしい事業に取り組んでいる。

令和 5 年度はコロナ禍の影響を受けながらも、助成事業については、すべて実施することができた。また、助成事業すべてでアンケートを実施。その結果を評価・分析するとともに、その結果を組織内部で評価し、見直し、改善、広報への反映など、次年度に向けて PDCA サイクルを回すこととし、自主事業検討会議（年 2 回程度開催）、事業団の経営会議（毎月開催）や各施設のグループリーダーによる会議（毎月開催）で評価、検討を行っている。

【経営戦略】

守山市との指定管理契約については、（公財）守山市文化体育振興事業団が平成 31 年度～令和 5 年度は非公募で受託し、令和 6 年度からもこれまでの運営管理に対する市の積極的な評価のもとに引き続き受託している。

また次期経営を担う若手職員の参画のもとで第 2 期中期計画（2022 年度～2026 年度）を策定し計画的に事業を推進している。

財政面においては、コロナ禍の影響により施設利用料及び入場料収入等はコロナ禍以前に比べ落ち込んでおり、さらに光熱水費の高騰と非常に厳しい状況であったが、経費節減と経営努力等により、黒字で決算を括ることが出来た。

開館 37 年が経過し、老朽化に伴う施設整備については、令和 9 年に改修工事が予定されている。引き続き設置者である守山市に対し計画的な改修を要望するとともに、簡易な修繕については臨機応変に対応して行く。

【人事戦略】

平成 26 年度からはプロデューサー（非常勤）が、平成 28 年度からはディレクターに相当するプロパー職員が置かれている。当該プロパー職員については、2 か月間びわ湖ホールに研修派遣し専門職員としての資質を磨き、その後助成事業を始めとするアートマネジメントを担当している。「ルシオール街かどコンサート」「ルシオール音楽塾」などの助成事業も、上記アクションプランに基づき始まった事業である。平成 31 年度は若手人材育成の取り組みとして、クラシック経験者の舞台技術員（新卒）を有期契約職員として採用した。

また、公立文化施設協議会の研修へも積極的に参加している。

【ネットワークの構築】

助成事業の執行を通じて、びわ湖ホールや日本センチュリー交響楽団とのネットワークの形成、情報やノウハウの交換ができています。

また、全国公立文化施設協議会の定時総会、滋賀県立公立文化施設協議会会議等に積極的に参加し、情報交換を行っている。

【MORIYAMA ルシオール倶楽部】

会員数：企業会員（27 社）、一般会員（241 名）。文化芸術を親しむ会員向けにさまざまな事業の情報提供（毎月）を行うとともに、会員価格でのチケット販売、チケット購入時のポイント付与など会員向けサービスを拡充することで、事業への参加を促し、固定的な顧客となっている。

【ルシオール ユース ウインド オーケストラ】

教員の働き方改革等による、部活動の地域移行の流れを受け、生徒の技術向上を支援し地域に根付いた音楽文化の発信を行う「ルシオールユースウインドオーケストラ」を令和 4 年 10 月に設立。令和 5 年 4 月には「第 1 回定期演奏会（入場者 860 名）」を実施し、また滋賀県や地元の経済団体からも依頼を受け、演奏活動を行った。

なお、ルシオールユースウインドオーケストラの活動は令和 4 年度の文化庁（仮）地域文化倶楽部創設支援事業に採択された。